

会 議 録

会議の名称	第3期 小金井市地域自立支援協議会（第7回）
事務局	福祉保健部障害福祉課、地域生活支援センターそら
開催日時	平成25年1月22日（火） 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者	<p>【委員】 高橋智委員(会長)、矢野典嗣委員（副会長）、鈴木日和委員、馬場利明委員、秦郁江委員、森田純司委員、森田史雄委員、グローバル聡美委員、赤木敏一委員、大久保昌弘委員、堀池浩二委員</p> <p>【オブザーバー】 ひまわりママ 小幡美穂 ピノキオ幼児園（竹の子会） 大山文子、時任明子 東京学芸大学 森岡直美</p> <p>【事務局】 福祉保健部長 佐久間育子 障害福祉課障害福祉係長 藤井知文 障害福祉課相談支援係長 高田明良 障害福祉課障害福祉係主任 北村奈美子 地域生活支援センターそら 伊藤奈保子</p>
傍聴の可否	可
傍聴者数	5人
会議次第	別紙会議録のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	添付のとおり

**第 3 期 第 7 回小金井市地域自立支援協議会
議事要旨**

日 時：平成 25 年 1 月 22 日(火) 14：00～16：00

場 所：前原暫定集会施設 A会議室

出席者：協議会委員 11 名

オブザーバー 4 名

福祉保健部長

障害福祉課障害福祉係長

障害福祉課相談支援係長

障害福祉課障害福祉係主任

地域生活支援センター そら

配布資料 1： 小金井市の発達支援事業と保護者のニーズ ―保護者の面接法調査から―

2： 発達支援事業意見交換会のお知らせ

1. 開会

事務局 (藤井係長)	<ul style="list-style-type: none">・開催にあたり、配布資料の確認。・中村委員・水野委員より、欠席の連絡が入っている。森田（純）委員からは遅刻の連絡が入っている。・本日は、「ひまわりママ」の小幡様、「ピノキオ幼稚園」保護者の大山様・時任様、東京学芸大学学生の森岡様の 4 名は、オブザーバーとして出席していただく。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none">・はじめに、佐久間福祉保健部長から報告をお願いしたい。
佐久間福祉保健部長	<ul style="list-style-type: none">・本年の 4 月 1 日から児童発達支援事業を含めた発達支援事業を福祉保健部障害福祉課が所管することになっている。これに伴い、障害福祉課の名称を自立生活支援課に変更することになった。・1 月 30 日から開催される 2 月議会で、組織改正に関する補正予算について上程し、議決いただく予定となっている。課の名称変更等に伴う消耗品費を上程する。・配布資料にある発達支援事業意見交換会のお知らせをご覧ください。月 1 回のペースで意見交換会を開催。発達支援については、障がいの受容ができない保護者の方や当事者の方がいる中で、障害福祉課という名称について様々な意見を頂戴しているところ。そのことをふまえ、障害福祉課から自立生活支援課へ名称変更するというに至った。・障がい受容の問題もあるが、発達支援事業については、生まれてから生涯にわたる支援を行なうとともに、小金井市保健福祉総合計画の考え方に即した障害者計画・障害福祉計画において、小金井市障がい者ビジョンに掲げられているとおり、障がいの有無に関わらず、住み慣れた地域で安心して自立した生活ができる共生社会の実現という大きな目標がある。その両面を勘案して、障害福祉課の名称を自立生活支援課へ変更する。以上、報告とさせていただきます。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none">・本日初めて耳にした内容だった。「隗（かい）より始めよ」という言葉がふさわしいと思うような報告だった。大事な名称変更についての話だった。

	・この話は決定ということでよいのか。
佐久間福祉保健部長	・決定である。
高橋会長	・本年 4 月 1 日よりスタートするため、認識をお願いしたい。

2. 議題

(1) 発達支援に関する協議②

「ひまわりママ」「ピノキオ幼稚園」保護者及び東京学芸大学学生からの報告

高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の会議は、出席者 11 名となり、本協議会は成立。 ・議題(1)の「発達支援に関する協議②」に入る。 ・本日「ひまわりママ」保護者からの報告、「ピノキオ幼稚園」保護者からの報告、東京学芸大学の学生からの報告となる。それぞれ約 20 分程度の時間をお願いしたい。残りの時間は、質疑や意見交換を行ないたい。 ・それでは、まず「ひまわりママ」の小幡氏からお願いしたい。
ひまわりママ (小幡氏)	<p>～団体の副代表を担当している小幡です。宜しくお願ひ致します。～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず始めに「ひまわりママ」の説明を行なう。子ども家庭支援センターの「ゆりかご」が行なっていた「ひまわりクラブ」という発達が気になる幼児を対象とした養育グループがあり、そこを卒業した保護者たちがこのままバラバラになるのは心細いということもあり、仲間に声を掛け合って始まった団体。 ・平成 21 年に 7 名でスタートし、現在の会員数は 32 名となっている。主に、通常の学級に在籍する発達障がいの子どもの保護者の集まり。診断のある子もいない子もいる。 ・「ゆりかご」と連携して、月 1 回保健センターで定例会を開催している。今日も定例会の日だった。月に 1 回は必ず集まるようにしている。 ・日常の子育ての悩みを共有し、情報交換をしながら助け合いをしている。 ・様々な先生の協力を得て勉強会も実施している。保護者だけではなかなか解決できないようなことを先生へ相談することで解決の方向を見出せる。 ・過去に自分自身がひとりぼっちだと感じたことがあった。このような会は本当に必要だと感じている。同じ悩みを抱える保護者と顔を合わせて話をすることや情報交換をすることが大切なこと。 ・親の支援ができていれば、子どもの支援につながっていく。 ・発達支援事業に関することとして、「ひまわりママ」の立場として考えていることは、いろいろな保護者が児童発達支援センターを訪れると思うが、同じ悩みを抱える保護者同士が出会える場があればよいと思っている。その中で、「ひまわりママ」としてできることがあれば協力していきたいと思っている。 ・ひとりで悩みを抱えなくてよい環境を整えてもらいたい。ひとりで抱えてしまうと解決の道があってもそこへつながらない。 ・会の中では、通常級に通っている子どもが多いが、学校とのコミュニケーションにとっても苦労している。扱いにくい子どもと認識されてしまう。そのような状況に児童発達支援センターができることによって、先生の助けにもなるのではないかと思う。第三者が入ることで、両者の関係性がよくなればよいと期待している。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問等あればお願いしたい。

秦委員	・子ども家庭支援センターからスタートした自主グループとのことだったが、現在は保健センターからどのような協力を得られているのか。
ひまわりママ (小幡氏)	・場所の提供として支援をいただいている。連絡先にもなっている。 ・活動の報告を行ない、情報の共有はしているが、実際に職員がグループに入って活動を共にすることはない。
鈴木委員	・通常の学級に通っている子どもが多いとのことだったが、面接対応など学校が行なっている現状を教えてほしい。
ひまわりママ (小幡氏)	・学校によって差がある。特別支援学級がある学校であれば理解はある。そうではない学校では、学校側の考え方もあるため一概には言えない。 ・学校の中に運営委員会があり、先生の共通理解のため実施されているが、その中に保護者は含まれていない。そのため、どのような話し合いになっているのかはわからない。保護者へは連絡が入るが、その後どのような支援につながっていくのかという話の連絡はないため、わからない。保護者の視点は反映されない。 ・先生一人に対し生徒が40人となれば、できる支援は限られてくる。先生一人で抱える状況になる。
馬場委員	・子どもが発達障がいとなれば、学校から個別支援計画が作成され、担任の先生とのやりとりはされていると思うが、その辺りはどうなっているのか。
ひまわりママ (小幡氏)	・個別支援計画を作ったことはない。実際には、こちら側から先生に面談を申し込み、通級の先生を交え三者で面談をし、これからどうしていこうかということ話し合う形。
馬場委員	・文書のやりとりはしていないのか。
ひまわりママ (小幡氏)	・そのような文書を作成するということが今知った。
高橋会長	・本来、作成する義務はある。なぜ作成されていなかったのか問題。
ひまわりママ (小幡氏)	・別な場所で個別支援計画の用紙を目にした。保護者が記入する場所もあった。
馬場委員	・学校の特別支援コーディネーターと話をしたことはあるか。
ひまわりママ (小幡氏)	・ない。通級の先生がコーディネーターの役割となっている。学校も手いっぱいな状況と思われる。
高橋会長	・今、一番学校に求めたい支援や理解は何か。 ・小金井市も今年から児童発達支援センターが開所されるが、そこへ求めたい最も大きな要望は何か。
ひまわりママ (小幡氏)	・先生の理解はもちろんであるが、先生一人で抱える状況ではなく、多くの先生で支えるシステムが必要と思われる。 ・児童発達支援センターには、学校との連携をお願いしたい。
高橋会長	・特別支援教育支援員の配置は課題。小金井市でも予算計上をお願いしたい。 ・学校との連携は不可欠。発達支援の意見交換会でも教育委員会とは話し合いを重ねてきた。
馬場委員	・通級の場合の送迎はなく、保護者が付き添いと聞いているが、その辺りの負担はどうか。
ひまわりママ (小幡氏)	・送って行って、終了時間に間に合わせ、迎えに行く形となっている。
馬場委員	・基本的には保護者の送迎で、ヘルパーなどガイドの送迎は不可と教育委員会

	は言っているが、現実はどうなのか。
ひまわりママ (小幡氏)	・利用しているという話を聞いたことはない。
馬場委員	・「手をつなぐ親の会」でも話をしたことがあるが、その理由を教育委員会は安全対策もあるが、送迎の際に学校での様子などを話したいため、ヘルパーの介助は認めていないとの回答だった。それについては、実際はどうなのか。
ひまわりママ (小幡氏)	・送迎の際に、通級の先生と話をすることはできる。連絡帳があり、その通信欄に記載するノートのやりとりはできる。面と向かって話ができなくても、ノートのやりとりができるという利点もある。
馬場委員	・とは言え、そのために全部の介助を認めないというのは話が違うのではないかと。 ・ノートのやりとりをしているのであれば、送迎は原則として保護者が行ない、保護者が行けない時には、介助人の送迎を認めるということにかまわないのではないかと思うが。
ひまわりママ (小幡氏)	・仕事をフルタイムで勤務している方は、送迎ができないために通級を断念するというケースもある。
高橋会長	・特別な支援を受けるために、保護者への就労制限がかかってくるというのは大きな問題。障がいがあっても働き続けられるようなサポートも必要。学校教育に加え、生活へのサポートも必要。そのような観点を持った小金井独自の視点を検討を重ねていかなければならない。
馬場委員	・送迎の問題で通級をあきらめなくてはならないというのは問題。
ひまわりママ (小幡氏)	・特別支援の判定が出たが、親の意思を尊重し、普通級に通わせるとなった場合、通級の利用ができないため孤立してしまう。
馬場委員	・特別支援判定で普通級に行ったら、問題があるから通級は使わせられないという話なのか。
ひまわりママ (小幡氏)	・そうではないという話だったが、そのように聞こえた。 ・6年間見直しの機会がない状況。正直なところ、もしかすると通級に通っていたらもう少し違っていたのではないかと思う部分もある。
高橋会長	・行政の独自判断で行なっているところ。子どもの発達の部分をきちんと考えて支援していかなければならない。 ・発達支援事業が立ち上がる段階で検討して行ってほしい。 ・これまでは、教育委員会だけがやっていたが、これからはいろいろな部署で共同して実施していくことになる。改善を求めたい課題。 ・続いて、「ピノキオ幼稚園」からお願いしたい。
ピノキオ幼稚園 (大山氏)	～今年度ピノキオ幼稚園の「たけのこ会」の会長を務めている大山です。宜しくお願い致します。～ ・14:50に送迎があるため、一旦退席させていただく。 ・「ピノキオ幼稚園」に入園して2年目になる。入園するまでは、一生このままなのか等思っていて、どのように育てていったらよいかわからなかった。入園してからは、先生の粘り強い指導のお陰で、ゆっくりではあるが少しずつ自分のことができるようになってきた。とても感謝している。 ・今年度より「ピノキオ幼稚園」では、発達支援事業対策委員会を立ち上げた。その会長となっている時任氏と共に本日は伺った。 ・「ピノキオ幼稚園」は、「手をつなぐ親の会」の方の個人宅で保育を始めたこ

とがきっかけでスタートした。親の思いが今の形へとつながった。現在でも保護者会の活動は盛んで、親同士の親睦会や療育に関する学習会のために、月に2回の会合が開かれている。

- ・今年度に入ってから、急に委託の話が具体化してきたため、「たけのこ会」も毎週のように集まって話し合いを重ねてきた。しかし、今年度は入園して1～2年目の人しかいないため、知識のない中、委託の話にパニック状態だった。「ピノキオ幼稚園」に入園できてよかったと一安心しているところに委託の話がきて、すべて変わってしまうのではないかととても不安になった。
- ・何とかしなければと、卒園した保護者の方にこれまでの経緯を伺ったり、保育課の人に保護者全員の思いを書いた文書を提出したり、要望の確認作業を何度も繰り返し行なってきた。
- ・「ピノキオ幼稚園」の先生との意見交換会も行なった。発達支援センターに関する勉強会を開催したり、三鷹の「北野ハピネスセンター」にも見学へ行ってきた。支援シートについての検討をしたり、意見交換会には毎回可能な限り出席をしてきた。日々の育児で手いっぱいな状況の中、一生懸命前を向いて頑張っている。
- ・長い年月かけて「ピノキオ幼稚園」が培ってきたノウハウを委託先にはきちんと引き継いでもらいたいと思っている。最低限これまでと変わらない質の療育を受けられるようお願いしたい。
- ・子ども達は日々の療育の小さな積み重ねで少しずつ成長してきている。移転、委託によって子ども達の日々の成長を止めないよう、関係者の皆様にはご配慮いただきたい。

ピノキオ幼稚園
(時任氏)

～発達支援事業対策委員会の委員長を務めている時任です。宜しくお願ひ致します。～

- ・発達支援事業の話をする際に、「ピノキオ幼稚園」が発足されるまでの成り立ちと現在に至るまでの歴史を語らずにはいられない。先程の大山会長の話に加え、もう少し細かい部分をお話したいと思う。
- ・「ピノキオ幼稚園」は、昭和41年に発足。心身障がい児保育は、翌年の昭和42年から社会福祉協議会の事業としてスタートした。その当時は、市から保健師2名を派遣していただき、本町児童館を借り上げて実施した。昭和43年には、福祉会館事業として実施され、昭和51年に「けやき保育園」併設で園舎が建てられ、現在に至る。
- ・なぜこの経過を話したかと言うと、その時その時の保護者が子どものために何ができるのかという思いでここまで出来上がってきた。今もその原点は変わらないというところから、報告させていただいた。
- ・区画整理に伴っての移転や発達支援事業の中に通園が入るといった部分については、3年前から役員が中心となって取り組んできた。今年度に入り、運営部門という重要な部分についての話となり、今年度の役員は手探りの状態から始まっている。
- ・話し合いのために夕方の時間帯に集まって話をするというのは、子ども達もいるため、なかなか難しい状況。午前中に時間を作って話をするか、もしくは子どもを寝かせてから夜メールやチャットで会話をするなど、睡眠時間を削っても何とか流れに遅れないよう取り組んできた。
- ・3年前の役員とのつながりやこれまで「ピノキオ幼稚園」を支えてきてくれた諸先輩方との出会いがあり、多くのことを勉強させてもらった。それが本当に

大きな力となっている。今こうしていただけるのも、そのような方々から原動力をいただいているからだと感じている。

- ・意見交換会に出ることで、いろいろな立場の方々の意見等を聞くことで、幅も広がった。自分達なりに一生懸命学んできた。

- ・唯一、当事者としての立場なのは、私たちだと感じている。押し潰されそうになることもあるが、原点に戻りながら皆で一緒にどうしていかを考えていくスタンスを崩さずにやってきている。

- ・大きな希望としては、5点ある。

①「けやき保育園」との併設を活かしてほしい。児童発達支援センターと保育園の併設というのは、非常に珍しいこと。乳幼児期に同じ施設内で過ごせるというのは、お互いの個性を理解したり尊重したり、学び合うことができるという環境でとてもよいことだと思っている。共に過ごすことで、新しい出会いや関係が生まれ、人間性の基礎が出来てくるように思う。

- ・保育園は、地域支援にも力を入れていると聞いている。地域で子育てしている親御さん達も一緒に触れ合い、学び合うことで何かしらを感じてもらい、培ってってもらうことで未来へとつながってほしいと思う。

- ・通園をしている、療育を受ける中では、保育園の行き来ができるというのは、個別療育と社会性への学びを併用して行えることにつながる。スモールステップで丁寧な療育となるのではないかと思われ期待をしている。

②通園の引き継ぎを丁寧に行なってほしい。新しい事業であるため、まっさらな中考えながら進めてきた。見通しもイメージも持てない私達であるため、ただただどうなってしまうのかという不安が大きい。前に向かって一緒に検討していこうという所に行きつくまでに、半年ぐらいはかかった。

- ・通っている子どもの中には、新しい環境に慣れることが不得意な子もいる。今も不安はぬぐい切れていない。引っ越しの方法や落ち着いて過ごすことができるような職員の引き継ぎについて、私達にもわかりやすく説明をしていただきながら行なってほしい。

- ・来年度卒園の子どもは、新しい場所で半年間過ごして卒園となる。その辺りに関する配慮もお願いしたい。

③プロポーザルの審査に何とか参加させてもらいたい。他市では、利用者も含めて検討されているところもある。

- ・今までも私達の声を聞きながら、要望に応じてきてもらっているが、何かひとつ形となって出来ていくとありがたい。

④最近の意見交換会で支援シートについての話があった。私達も支援シートについては話し合ってきている。私達としては、各関係機関にスムーズな連携を図るためのツールとして活用したい。そのためには、各関係機関が知りたい情報が支援シートに盛り込まれていて、最低限の情報をそこで提供できるようにしたい。当然ヒアリングはあるが、ヒアリングの量を軽減できるのではないかと思う。

- ・プロフィールや健康面の情報は、児童発達支援センターで保管と管理をしてもらいたい。一番の支援者である私達が、何らかの事情により療育ができなかった場合に、各関係機関がスムーズに連携を取り合い、その子に応じた対応をしてもらえればと思う。

- ・児童相談所で勤務している知り合いに支援シートについて聞いてみた。児童相談所では、精神的にも肉体的にも、障がい名はついていないが、なかなか馴

	<p>染めない子どもの育児に追い込まれ、自殺や置き去りにされるケースがあるという話を聞いた。児童発達支援センターが情報提供の場所として機能してもらえれば、その子の生活の確保がスムーズにできる。そのような場所があればよいと思うと話していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援シートの対象者、誰が指示を出すのか、どこにその支援シートを提示していくのか等、基本的な運営の部分についてしっかりと話し合いを重ねてほしい。開園に間に合わせるのではなく、じっくり時間をかけて作り上げていった方がよいのではないかと思う。 <p>⑤児童発達支援センターの名称を素敵に名称にしてほしいと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが足を運びたいような、象徴的な何かがあるとよいと思っている。 <p>～以上 5 つの希望について～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで児童発達支援センターという相談する場所が小金井市にはなかった。多くの障がい児のいる家族や、まだ障がいとは言われていない家族が待ち望んでいる児童発達支援センターだと感じている。 ・これから児童発達支援センターがゆっくりと成長していく中で、小金井市の象徴的な存在になるよう、児童発達支援センターに関わるすべての方々と一緒に、私達も児童発達支援センターを育てていかななくてはならないのではないかという必要性を感じている。 ・これまでも私達の声を出す場面を作ってください、受け入れてきていただいている。改めて、障がい児家族の思いがダイレクトに皆さんに伝えることができるような会を今後も構築していただけることを期待している。 ・一旦、お迎えのため退席させていただく。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問については、戻ってからとさせていただきます。 ・続いて、東京学芸大学の学生森岡氏からの報告をさせていただきます。 ・森岡氏は、4月より就学前の支援をしている施設での就職が決まっている。幼児の問題に関心があり、発達障がい教育を専攻。 ・卒業論文について随分と迷っていたが、小金井市の発達支援事業が立ち上がる最中であるため、丁寧に追いかけてほしいと、私の方から強引に勧めた経過がある。この研究は、小金井市の発達支援事業の発展に間違いなく役立つことは確信していた。「のびゆくこどもプラン」や市議会の答弁など、いろいろなところで参加してきた。 ・今日報告する内容は、保護者の方からの聞き取りをベースにした内容となっている。当事者の方々の意見を聞かなければ何も始まらない。小金井市の発達支援事業に則して、保護者の方々のどのようなニーズがあるのかということについて、かなり詳細な調査をしている。
東京学芸大学 (森岡氏)	<p>～東京学芸大学の森岡です。宜しくお願ひ致します。～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小金井市の発達支援事業と保護者のニーズ ―保護者の面接法調査から―」のパワーポイントを使用し説明する（別紙参照・別紙に記載してある内容についての記載は省略）。 ・小金井市の児童発達支援センターについての基本理念を基に、小金井市で障がい児の子育てをしている 20 名の保護者を対象に調査を行なった。 ・子どもの対象年齢は、就学前から就労されている方まで。27 の設問に答えていただき、短い方で 30 分、長い方で 2 時間の時間をかけて回答していただいた。 ・「お子さんの「生涯にわたる支援」を考えたときに、どのような支援を求めますか。」との設問に対し、就労支援が一番多い結果となった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方の意見の集約として、「生涯発達支援」を掲げているのであれば、学齢期、18歳などという年齢区分を設けることなく、生涯を見据えた支援を行なってほしいということだったと思う。 ・今回、基本理念や計画が打ち出されているが、保護者が求めている支援は記載されているものだけではない。 ・58枚にわたるスライドで調査内容を報告したが、10分の1にも満たない保護者の方々の意見。平成25年10月の開設に向けて、準備段階に入っているが、まだまだ間に合うところもたくさんあると思う。保護者の方々のニーズを踏まえて検討をしていただきたい。 ・このような発表をする場を設けていただき感謝している。以上報告とさせていただきます。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、堀池課長にもお願いをし、なるべく多くの当事者の方への出席をお願いした。発達支援事業の方向性を探っていこうという試みだった。 ・森岡氏の当事者調査の結果からもわかるように、当事者の方々の意見をしっかりと把握するということが発達支援事業には必要ということ。 ・調査については、3月まで卒論の継続として実施していくためご協力をお願いしたい。 ・まず、「ピノキオ幼稚園」の保護者の方々への質問等お願いしたい。
森田（純）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・5つの希望の内の2つ目に引き継ぎを十分に、との話があったが、具体的には引っ越しのような物の移動もあるし、情報等の引き継ぎもある。引き継ぎの方法等、イメージしているものがあれば教えてほしい。
ピノキオ幼稚園 （時任氏）	<ul style="list-style-type: none"> ・正直なところ、まっさらな状況。配慮しますと言われている中、これから具体的に示されると思う。そこが出て初めて、大丈夫と思えるのかもしれない。時差が生じている。もう一歩前に考えが及んでいけばよいが、現状を把握していくことが精一杯。私達の方から提示をしていくことができればよいと思うが、難しい。他の通園に通っていたという人がいれば違うのかもしれないが、皆が初めてのこと。 ・場所だけでもこだわりのある子どもも多くいるため、建物の入口から入れるのかというところから始まると思う。その辺りがあるため、建設途中であっても少しずつその場所を見せて帰る、というようなことも繰り返し対応してもらうことが必要かもしれない。 ・職員も変わってくるかもしれないが、何とかして職員同士が並行して療育できる時間を作ってもらいたい。予算の問題もあり、なかなか厳しいとは思いますが、何とかお願いしたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・療育の維持をしていくことは必要不可欠。大きな問題は、建物も職員もすべて一度に変わってしまうということ。危機的状況。このようなことは普通ありえない。 ・大変な状況にならないために、立ち上がる前に十分な議論をし、実践的な交流等を行ない、子どもたちに慣れてもらう必要がある。「ピノキオ幼稚園」のノウハウを継承して、さらなる発展をしてもらいたい。 ・先程、「ピノキオ幼稚園」の歴史について報告してもらったが、非常に大事なことだった。これまでの過程があって、現在に至る経過がある。そのような視点がなければ、引き継ぎもうまくいかないと思う。
ピノキオ幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・私達の時に新しい幕が開くという過渡期にあたり、正直苦しい状況。今まで、

(時任氏)	<p>作ってきて下さった方々の思いを考えると、身動きが取れない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先輩方は本当に優しく、時代と共に変化をしていくのだから、そのような生き物として施設はあるから、展開していくものというありがたい言葉ももらっている。軸だけは崩さず、同じ気持ちでやっていきたいと思っている。今の子ども達に、できることは何なのかを考えたい。 ・自分達の子も達が卒園したり、退園したりした後に、私達が要求していることが確立していくのかもしれないが、それでもよいと思っている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・プロポーザルへの参加について話が出ていたが、とても重要なことだと感じている。その必要性についての要望や背景等をもう少し教えてほしい。
ピノキオ幼稚園 (時任氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・全てが変わってしまうというのに、流れにのっていきただけでいいのか、ということが大きい。 ・新しい委託先については、直接子どもたちに関係すること。親も直接関わってくる。知識はなくても、その動向は一緒に見させてほしいということは、全員一致。何もわからない、どうなっているのかよくわからない、ということが本当に不安。本当に大丈夫なのかということにつながってしまう。 ・大きな問題である委託先を決めることについては、ぜひ参加させてもらいたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働の意見交換会があって、児童発達支援センターを設置していくという事は決定していること。業者選定も含めて、市民協働で進んでほしい。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード面での要望等があれば教えてほしい。
ピノキオ幼稚園 (時任氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な部分は予算も通過し、大々的に動き出している。元を辿れば、通園部門も市でそのまま実施する、相談もということだった。通園と相談を別分けにして行なうという流れの中、施設を考えてきた。しかし、昨年4月に法改正があり、児童発達支援センターの中に通園施設を作らなければ、補助金が出ないという話となり、児童発達支援センターに移行するという話が出てきた。 ・2~3年前に建物の検討委員として加わっていた役員の方々が、そうなってくると、この部屋で大丈夫なのかという話は出ている。 ・保育園との併設については、とてもよいという見解。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の位置や部屋の作りなどについてはどうか。
ピノキオ幼稚園 (時任氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭や部屋の位置については、かなり一緒に検討させていただいているため、その声については、反映されていると思う。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・佐久間部長へ質問したい。名称については、公募するのか。
佐久間福祉保健 部長	<ul style="list-style-type: none"> ・公募する予定。先程の話にもあったように、足を運びたいと思われるような、親しまれるような愛称を募集したいと思っている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の皆さんからの案のようなものはあるのか。
ピノキオ幼稚園 (時任氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ出ていない。現段階では、目先のことでの話合いになっている。しかし、たまにこのような楽しい話をしていかないと息が切れてしまう。ワクワクするような話もしていきたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・通園部門をピノキオの名前を残すようなことについての話は出ているのか。
ピノキオ幼稚園 (時任氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・話には全く出ていない。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・佐久間福祉保健部長へ質問したい。プロポーザルの話が出たが、「生活実習所」もプロポーザルで通過したのか。生活実習所の委託先を決定する時もプロポーザルだったのか。その時に当事者団体が入っていたかどうかを確認したい。

佐久間福祉保健 部長	・「生活実習所」は、東京都から委譲されているため、市の委託ではない。
馬場委員	・東京都がプロポーザルをしたのか。
矢野副会長	・東京都が公募し、法人が手を挙げて、市が推薦をするかどうかということ。
馬場委員	・そのプロポーザルに、当事者団体が入っていたかどうかはわかるか。
矢野副会長	・それははないと思われる。
馬場委員	・これからの新しいプロポーザルについては、4月からの自立生活支援課が担当することになるのか。
堀池委員	・その通り。
馬場委員	・人選についての意向はあるのか。
堀池委員	・検討は進めている。
馬場委員	・当事者団体が入ることについてはどうか。
堀池委員	・契約や市の規定の問題もあり、困難と考える。意見については、これまでも伺っている。
馬場委員	・できれば当事者で参加をさせていただきたいが、もし無理ということであれば、プロポーザル側の方向性を含めた発表の場は、必ずオープンな形でお願いしたい。議論が全く見えない密室で決められてしまうと、その後の運営で自分達が何を言いたいのか見えなくなってしまう。経緯についてはオープンにしてほしい。
高橋会長	・当事者である現在の利用者の思いが届かないまま、先へ先へと進んでいってしまう。 ・この後の継続した利用がマイナススタートになってしまわないよう、自分達で変えていかないといけない。様々なリスクや困難を背負って、この後も利用していくことになる。そのためにも、もっと当事者の声を出して、決定に参加できる場を設けていくことが、子どもの支援だけではなく、保護者にとっても生涯発達支援として有効だと思う。規定もそうだと思うが、このような場に出される強い意見もふまえて、今後検討して行ってほしい。
秦委員	・今日の参加については、家庭の調整等大変だったと思われる。 ・これから理事者も変わる、職員も変わるということは、保護者にとって本当に不安で先が見えず、いい人が来てくれるのだろうかという気持ちだと思う。 ・親支援が子ども支援につながるということに非常に感心した。自分だけでなく、親相互の仲間のつながりを大事にしていこうという理念を次の理事者もきちんと理解し、親をサポートしていこうという考えはとても大事なことだと思う。 ・小金井市は、毎年 900 人弱の子どもが生まれている。国の調査だと公立小・中学校に在籍する児童の 6.5%が発達障がいの可能性がある公表した。それを小金井市にあてはめると、その子どもがすべて「ピノキオ幼児園」を利用できるとは限らない。ケアがこぼれないようにしていかななくてはならないと思う。今後、私達が考えていかななくてはならないことだと思っている。
矢野副会長	・報告を聞き、幼児は非常に難しい問題があると感じた。 ・「生活実習所」が移行する時にどうだったのかということも思い出しながら聞いていた。4月から完全移行をするために、1月から3ヶ月間を試行期間として引き受ける法人が職員を派遣して、その中でどのような事業をやっていたのか等の引き継ぎをした。その中で保護者会と様々な話し合いを実施した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの内容を4月から激変はしない、継承することを前提に、各法人が引き受けて実施してきた。建物は変わらず、人は変わるが、運営は極端に変更しないという形で実施できた。 ・対象者が成人であり、これまでの生活経験があるため、重度の利用者がパニックを起こすような状況はあったが、3ヵ月間の中で割とスムーズに移行できたのではないと思う。しかし、「ピノキオ幼稚園」の場合は、建物も全く変わってしまう。変わる前に引き受ける法人が決まっていたら、顔つなぎをし、一緒に引っ越していけるような形ができればと思う。 ・法人が3ヵ月間自腹を切って職員を配置し、手当を出していない。果たして、現実的にそれが良いのか悪いのかも含め、加味しながらいろいろなことを出来るとよいのではないか。 ・3ヵ月間は、都の職員と法人の職員という通常の倍以上の職員が配置されたため、子どもはより落ち着いていたり、逆に大人が多すぎて不安定という問題もあった。移行期間を引っ越す前から作れるように、契約の中で規定してもらえるとよい。
<p>佐久間福祉保健部長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に委託が始まる時期はある。相談事業をいつから始めるかという問題もある。 ・小金井市に限らないが、委託するにあたっては、人件費も含めた委託になる。3ヵ月間、引き継ぎをするという名目で実施をするというのは、市は職員に給与を支払う、委託先には、委託料を払うということになり、人件費を二重に支払うことになるため、このような形は認められない。 ・受けた事業所が自腹を切ったという話だったが、その分まで支払ったということになるが、それが現実。 ・今後、どのような引き継ぎができるかは検討している。皆さんが心配しているように、場所も建物も人も変わることになる。意見交換会での意見もある。市としては、十分考えている。どのような引き継ぎが必要かということは、検討している。もうしばらく時間がかかることにはなるとは思う。 ・両方に人件費を支払うことは、実際問題できないこと。引き継ぎの方法については、どのような工夫ができるのか市で検討していきたいと思っている。
<p>高橋会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに大きな刺激を与えないように、尚且つこれまでの「ピノキオ幼稚園」の長い歴史を継承・発展していくということを含めて、未来を展望して取り組んでいかないと、児童発達支援センターの機動力にはならない。 ・子どもに負担を与えないよう、可能な限り協力し合って対応していくことが必要であり、その部分を行政はじめ、各関係機関が協力してほしい。 ・大変な移行期間を乗り切っていきたいと思っている。
<p>森田（史）委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法改正があり、発達障がいも精神障がい者へ含まれることになった。これから関係が深くなると思われる。従来からも精神障がいの当事者の中には発達障がいの人もおり、グループホームや作業所等の社会資源を利用している。 ・統合失調症の発症年齢は、18歳前後。そのため、保護者は「ピノキオ幼稚園」の保護者の方のように若くはない。しかし悩みは、就労の問題、親亡き後の問題、住居の問題など発達障がいの保護者と同様であり、家族会の中で話し合っている。 ・就労については、障害者就労支援センターを利用し、相談しながら進めている。 ・昨日、堀池課長を囲んで、当事者と家族が話し合うという機会を持った。行

	<p>政の方々とはざっくりばらんに話をしようというものだった。お互いが協力し合って、小金井市をよりよい街にしていこうということについて話をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが高校生以上の家族の集まりの会というものはあるのか。
ピノキオ幼稚園 (時任氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園された方々の父親の会がある。「ピノキオ幼稚園」を卒園したお父さんたちが、自分はよくわからない、というところからスタートした。 ・点になってしまう状況はある。横のつながりはできているが、縦のつながりも必要だと感じている。 ・卒園した後は、孤独を感じるとの話を聞いている。卒園した後も集まれるような会を作っていきたいとは考えている。
森田 (史) 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、そのような会の方々との交流もしていきたいと思っている。 ・2～30年前に比べるとグループホームにしても施設にしても増えてきている。まだまだ少ないとは言われているが、子どもたちが大きくなった時に利用できる場所が多くなっているとよいと思う。
ピノキオ幼稚園 (時任氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・「手をつなぐ親の会」もあります。父母会では、先輩の話を聞くという機会を設けている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・堀池委員に質問したい。4月からは、障害福祉課が自立生活支援課になる。そうなれば、対象者の幅も広がる。すでに自立支援協議会も就学前から学齢までの話をしている状況ではある。現在、当事者団体は3団体参加しているが、今後は、発達障がいや学齢・幼児の代表の方も含めて議論していかないといけない。障がいの範疇とは言えないグレーゾーンの人たちについても同様。その辺りについては、今後どのように考えているか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな課題等あると思うが、他課との連携の中でオブザーバーとして参加を依頼していきたいと思っている。 ・特別支援ネットワーク協議会や発達支援の運営協議会の委員等も参加していただきたいと思っている。 ・障害福祉課としては、厳しい予算の中ではあるが、様々な方々からの意見や要望を聴く機会を設けている。個々の意見を聴く場を重要視している。今後も変わらず、現場での意見を聴く機会を設けていきたいと思っている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的にお願いしたいと思う。 ・時間の関係もあり、まとめに入りたいと思うが、他に質問等あればお願いしたい。
ひまわりママ (小幡氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・森岡氏の報告を聞いていて、つくづく感じたことは、18歳以降について。「ひまわりママ」の子ども達は、なかなか公的な支援を受けられないまま大人になることが多い。そうなると、コミュニケーションが難しく、就労へと結びつきにくくなってしまいます。高校3年生が最高年齢ではあるが、ここから先大きくなっていく段階で様々な問題にぶつかっていくことになるが、その支援が途切れてしまう。 ・児童発達支援センターの役割として、難しい状況はあるかもしれないが、就労支援センター等との連携をしながら、はっきりとした道筋を示してほしい。ここがはっきりしていないと、皆不安になってしまう。 ・連携します、生涯までみます、と言われても、その辺りは明確にされていない。何かしらの形でしっかりとした道筋をお願いしたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・18歳までの相談窓口は、発達支援センターが行なうということになっていても、実際は支援は、就労支援センターや各関係機関になると思う。きちんとし

	た連携は大丈夫かとの質問だったが、その辺りはどうなのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・森岡氏の資料は非常に役立つ内容だった。生涯にわたる支援の希望として、就労支援が多かったという報告だった。その部分については、考えなくてはならないことと感じている。 ・18歳以上については、なかなか明確にできていない状況を大変申し訳なく思っている。 ・地域自立生活支援センターや地域生活支援センター「そら」及び就労支援センター「エンジョイワークこころ」とこれから立ち上がる児童発達支援センターをどのように連携していくのかというつなぎの問題、大人になってからの就労等の相談についての問題については、今後できる限り早い段階で明確にしていきたいと考えている。
ひまわりママ (小幡氏)	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいの子も達やグレーゾーンの子も達は、発達をするのに他の子ども達よりは時間がかかる。20歳になっても20歳ではない。支援は継続的に必要。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の訪れも遅く、20代でも発達していく。30歳ぐらいでもよい形で成長していく。その部分の支援があるかないかによって、それ以降の社会移行の部分が変わってくる。単純に年齢で区切ってしまうことは、発達支援センターの意味を半減させてしまうということになる。なかなかその辺りの理解がなく、18歳で区切ってしまうことは、非常に大きな課題だと感じている。 ・各関係機関がきちんとサポートをして、発達障がいは発達していくという大原則を基に、青年期について社会生活を保障してほしいことを重ねてお願いしたい。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援事業について、4月1日から障害福祉課が自立生活支援課として所管する。 10月の児童発達支援センターの開所に向けて、事務的な作業や名称募集等を今後行なっていく。 ・できる、できないは別になるが、今後も意見交換等の話をさせていただきたい。少しでも実現できるようにしていきたいと考えている。 ・縦割り行政と言われているが、連携を重視し、その辺りの垣根を越えていかなくてはならないと思っている。 ・話し合いの場の設定等、依頼があれば応じるつもりでいる。今後とも宜しくお願いしたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の内容についての確認を行なう。今回は、小金井市教育委員会の出席で間違いはないか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市教育委員会の都合に合わせ、会議の日程変更をした形となっている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・矢野先生から何かあるか。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・会議終了後に、相談支援の部会で集まりたい。
ボーバル委員	<ul style="list-style-type: none"> ・報告をする予定になっていたと思うが、その日程が3月5日ということではないのか。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・矢野副会長からは教育・卒後の支援、ボーバル委員からは就労支援の報告をいただく。今回は、3つの報告となる。1テーマ、30分の時間配分で考えていきたい。

一同	・特になし。
----	--------

3. 事務連絡

(1) 次回（第8回）の開催日程の変更について

高橋会長	・事務局よりお願いしたい。
事務局 (北村主任)	・次回の会議は、2月28日(木)を予定していたが、小金井市教育委員会の日程調整を最優先とし、3月5日(火)の14:00~16:00へ変更する。場所は、本日と同じ前原暫定集会施設A会議室となる。
事務局 (藤井係長)	・なお、第9回は、3月19日(火)14:00~16:00の当初の予定通り開催する。場所は、小金井市市民会館「萌え木ホール」A会議室となる。 ・配布資料の「発達支援意見交換会の開催のお知らせ」について佐久間福祉保健部長より報告させていただく。
佐久間福祉保健部長	・「発達支援意見交換会の開催のお知らせ」を確認していただきたい。今回掲載している15回・16回の内容は、同じ内容で開催する。多くの皆様に参加していただけるよう時間帯の配慮を行なった。現在、検討部会の中で支援シートのたたき台を作成しているところ。意見交換会の中で、その内容について示す予定。ぜひ出席いただき、意見等をお願いしたい。 ・多くの方々に参加していただけるよう周知をお願いしたい。
高橋会長	・本日の会議は、これにて終了する。

以上